

リウマチ・膠原病内科

部長 公文 義雄

はじめに

日々の診療データをまとめる時期になった。反省旁々今年一年の当科のサマリーをご報告させていただきます。

膠原病はそもそも病理組織学的に定義づけられた疾患であり、侵襲を受ける組織はほぼ全身の臓器である。皮膚や運動器などの障害で受診される ER から、また、救急搬入される患者さんでは他科からもよくご紹介頂く。当科は主に、脳神経内科を併任しておられる吉田剛先生と私で担当し、総合内科の中山修一先生と一緒に診療にあたって下さり、非常勤の近澤宏明先生を合わせて 4 人の専門医で対応している。何れにしても、当科の診療は、研修医を含め全科の先生方のご協力の上に成り立っているものであり、この場を借りて御礼を申し上げます。

診療の実際

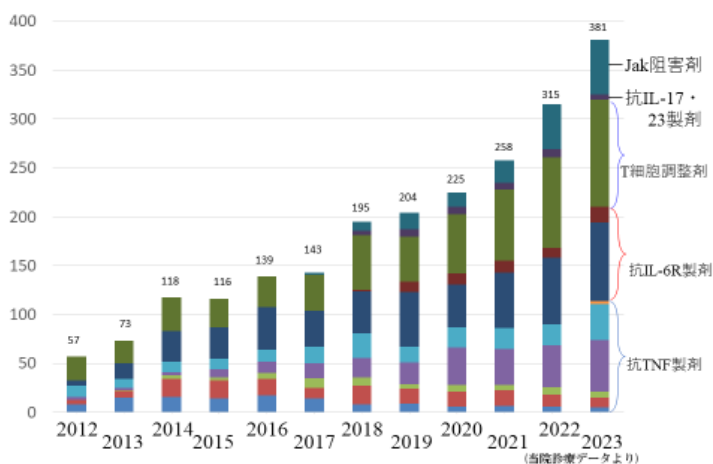
日々の診療には有難いことに、当院に連携して下さる高知県下関連施設の先生方から結構幅広くご紹介頂いている。当院は地域医療支援病院であり、ご支援頂く先生方にはご理解賜りながら逆紹介をさせて頂いているが、2023 年度は前年度 2022 年度に比較して 138%であり、当院へのご紹介率も前年度の 142%と増えており、皆様方のご協力を得ながら引き続き両者を増やしていく必要がある。

コロナ禍では、新型コロナウイルスの予防接種や感染症後に誘発された膠原病が一定の割合で発症している。一方、この 20 年間で関節リウマチ(RA)、シェーグレン症候群、SLE、血管炎症候群などの自己免疫疾患が増えており、今後も更に増えると報告されている。加えて、高齢化社会では加齢に直接影響を受ける変形性関節症(osteoarthritis, OA)なども増えるため、例えば RA では炎症性変化が重なって病態を更に複雑化させている。OA など他の関節疾患が併存すると RA では治療抵抗性となる事があり、難治性 RA(difficult to treat RA, D2TRA)の病像を呈することもある。結晶誘発性関節炎やリウマチ性多発筋痛症もそれぞれ上記と同様で、本来の RA の病態に干渉して複雑化している。また、SLE などにおいても部分症状のみで定型症状を示さない高齢発症の SLE の病態も増えてきている印象であり、周辺には難しい問題が山積している状態である。

また、当科では視神経脊髄炎スペクトラム障害(NMOSD)等の神経免疫疾患の治療も脳神経内科の先生方を巻き込んで行っている。神経生理機能系検査を用いて専門医が正確に評価しており、超音波検査を用いて筋疾患やサルコペニアの評価を行うなど新しい取り組みも行っている。

毎年お示ししているが、リウマチ診療に必要な生物学的製剤や Jak 阻害剤の使用量の推移で当科の仕事量をご理解頂きたい。外来センターで診る限りでは、関節障害に伴う車椅子患者さんは明らかに減ってきており、患者さんの生命や ADL の予後改善には貢献できていると感じている。しかし、右肩上がりの医療費の増大を観るにつけ我々個人でできることには限界を感じている。

各生物学的製剤・Jak阻害剤の使用量の推移



各生物学的製剤・Jak阻害剤使用量の経年的推移

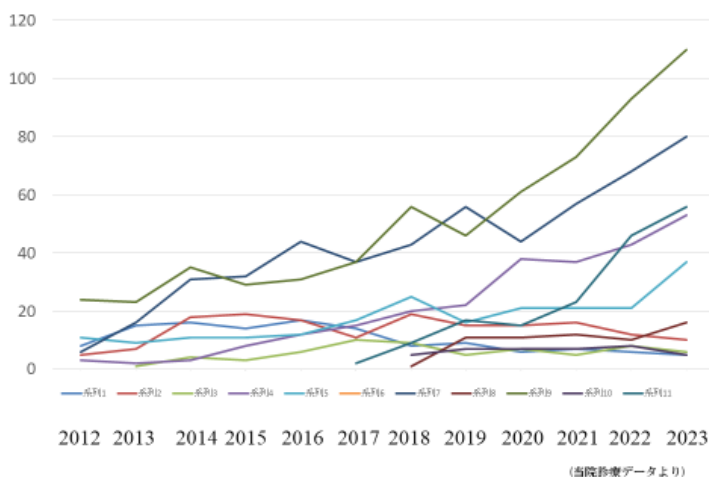


図 1.2. 生物学的製剤・Jak 阻害剤の使用量の推移

最後に

当科は研修医の先生方からは「難しいから…」と敬遠されることも時にあるが、ご指摘通りの側面も確かに当科の特徴でもある。互いに異なる疾患でも病態に共通した治療などの関連もあり、当該領域で発売された新薬が興味深いブレイクスルーとなる事もあった。急速に広がる新型コロナの重症肺炎に世界中で打つ手が無かった頃、RA 治療薬である JAK 阻害剤 Baricitinib は抗体製剤が開発され普及するまでの繋ぎ役として臨床現場に急遽採用され有効に機能して多くの重症肺炎患者さんを救命できたことは先生方のご記憶に新しいと思われる。この薬剤の有効性を指摘したのは今話題の Artificial Intelligence (AI, 人工知能) であり、医学論文で複雑な結果から真理を導き出す Machine Learning (ML, 機械学習) もその一つである。我々の好みとは無関係に診断の領域などにも AI は既に広がっている。我々はしっかり情報を得ることができれば、AI を使って生きられるこの時代をむしろ誇りに思うべきかもしれない。

本県は過疎地が多く地理的にも恵まれておらず、医療事情は厳しいものではあるが、多くの先生方と一緒に患者さんにとってより良い診療を目指していきたいと考えている。ご意見がございましたらご遠慮なさらずお教え頂きたいと思っております。

学術発表・講演会等

論文発表・著書

タイトル	執筆者 共同執筆者	掲載誌 出版社	巻・号 ページ
Correlation of muscle ultrasound with clinical and pathological findings in idiopathic inflammatory myopathies	Takeshi Yoshida, Hiroki Yamazaki, Yukako Nishimori, Naoko Takamatsu, Koji Fukushima, Yusuke Osaki, Yoshinori Taniguchi, Taiki Nozaki, Yoshitaka Kumon, Jemima Albayda, Ichizo Nishino, Yuishin Izumi	MUSCLE & NERVE WILEY	2023:1-9 DOI:10.1002/mus.27833
脊椎関節炎様症状を機に診断した家族性地中海熱非典型例と考えられる3症例	公文 義雄、古賀 智裕、來留島章太、吉田 剛、中山 修一、川上 純、近澤 宏明	日本脊椎関節炎学会誌 [第2期]	Vol.X, No.1, 31-37,2023
Influence of concomitant methotrexate use on clinical effectiveness, retention, and safety of abatacept in biologic-naïve patients with rheumatoid arthritis: Post-hoc subgroup analysis of the ORIGAMI study	Azuma T, Misaki K, Kusaoi M, Suzuki Y, Higa S, Kumon Y, Yoshitama T, Naniwa T, Yamada S, Okano T, Takeuchi K, Ikeda K, Higami K, Inoo M, Sawada T, Kang C, Hayashi M, Nagaya Y, Hagiwara T, Shono E, Himeno S, Tanaka E, Inoue E, Yoshizawa Y, Kadode M, Yamanaka H, Harigai M	Mod Rheumatol	2023Mar 2:33(2):271-278

学会発表

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
発熱はなく家族性地中海熱遺伝子(MEFV)によると考えられる関節炎の診断に向けた取り組み	公文 義雄、吉田 剛	日本脊椎関節炎学会 第33回学術大会	9月9日 ～10日 兵庫
炎症性筋疾患の解析におけるテクスチャー解析の有用性の検討	吉田 剛	第53回日本臨床神経生理学会学術大会(第16回神経筋超音波研究会)	11月30日 ～12月2日 福岡
骨格筋エコー検査を用いた関節リウマチ患者のサルコペニアの迅速診断	吉田 剛、公文 義雄、中山修一、野崎 太希、高松 直子、井上 正隆、和泉 唯信	第34回日本リウマチ学会中国・四国支部学術集会	12月1日 ～2日 岡山
高齢者関節リウマチの個別化療法～免疫代謝を考慮した有効で安全なマネジメント～	公文 義雄	第34回日本リウマチ学会中国・四国支部学術集会モーニングセミナー	12月2日 岡山